

玉屋（おどけ俄煮珠取）

さあ 寄つたり見たり吹いたり評判の玉や玉や
商う品は

八百八町毎日ひにちお手遊び

子供衆寄せて辻々で

お目に掛値のない代物を

お求めなされと辿り来る

今度仕出しじゃなければ

お子様方のおなぐさみ

ご存知知られた玉薬鉄砲玉とは事変わり

当たつて怪我のないお土産で

曲は様々大玉小玉吹き分けは

その日 の風次第

まず玉尽くしで言おうなら

たま 来れば人の客 など

とじらせば口真似の

こだまもいつか呼子鳥

たつきも知らぬ肝玉も

しまる時には算盤玉の

堅いおやじに輪をかけて

若いうちから数珠の玉

オットとまつた根性玉

しゃんとそこらでとまらんせ

とまるついでにわざくれの

蝶々とまれをやつてくりよ

蝶々とまれや菜の葉にとまれ

菜の葉いやなら葎の先へとまれ

それとまつた葎がいやなら木にとまれ

つい染み易き廓の水

もし花魁えおいらんと言つたばかりで後先は

恋の暗闇辻行燈の陰で一夜は立ち明かし

格子のもとへも幾度か

遊ばれるのは初めから

心で承知しながらも

もしやと思つこけ未練

昼の稼ぎも上の空

鼻の先なる頬かむり

吹けば飛ぶよな玉屋でも

お屋敷さんのお窓下

犬にけつまずいて

オヤ馬鹿らしい

口説きついでにおどけ節

伊豆と相模はいよ国向かい

橋を架きやれ船橋を

橋の上なる六十六部が落つこちた

〱 笈は流るる錫杖は沈む

中の仏がかめ泳ぎ

〱 坊さん忍ぶは闇がよい

〱 月夜にはあたまがぶらりしやらりと

のばサ頭がぶらりしやらりとこちや構やせぬ

〱 衣の袖の綻びも構やせぬ

しどもなや

〱 折も販う祭礼の花車の木遣りも風につれ

〱 オオエンヤリヨウ

〱 いとも畏き御代に住む

江戸の恵みぞありがたき。